

# 「学ぶ」ということ

## 夜間中学校で学んだこと

わたくし  
私たちには、奈良・京都への修学旅行一日目の夜の活動で、京都市の夜間中学校に行きました。

夜間の中学校というのは、いろいろな理由で学校に通えなかつた方が、おとなになつてから通う学校です。

生徒さんの多くは、私のおじいちゃんやおばあちゃんと同じくらい年をとられている方たちでした。私たち六年生が簡単にできるような問題でも、一生けん命に取り組まれていました。授業中、

「ねえねえ、ここ教えて。」

と、何回も言されました。授業を

受けている生徒のみなさんは、と

ても楽しそうに、イキイキとしていました。お年寄りの生徒の人たちに教えるのは、すごくきんちょうしたけれど、笑顔で話しかけて下さったので、安心して話をし、説明することができました。



京都市の夜間中学校

生徒さんは、文字の読み書きができなかつたつらい経験を話してくださいました。そして、「年をとつてから字を覚えようとしてもなかなか覚えられへん。」

と言いながらも、自分の名前を初めて書けるようになつた時の喜びや学校に通えるうれしさを本当に楽しそうに話してくださいました。今まで「笑顔」が自然と出てきました。夜間中学校は、「笑顔」ができる所、「笑顔」が作られる所だと私は思いました。私はある生徒さんが、

「孫に手紙を書きたいんや。」

と、話されていたことが一番心に残っています。

私は、夜間中学校を見学して、「勉強は何のためにするのか」と、考えさせられました。また、夜間中学校のみなさんから、たくさんのこと教えてもらいました。いろいろなことで負けそうになつても、夜間中学校で学ばれているみなさんのことを思い出して、私も自分の勉強を大切に、がんばっていきたいと思います。

これは兵庫県内の小学校6年生が書いた作文です。(改編)

この作文は、七十五才で夜間中学校に入学し、はじめて文字を学んだ生徒が、七十八才の時に書いたものです。（原文）

## 学校

わたしにとゞて、学校はいきがいです。  
そのしくてたのして、もし学校にきて  
なかつたらわたしはだめになつてます。  
いまは一字でもおぼえるのがうれしくて  
たのしくてしかたありません。けれどひとつだけ  
さんねんまでがあるんです。いまさうこ  
のとしになつて字をおぼえても、いまからでは  
なんのやくにきたてられへんでしょう。そのことを  
かんがえまくはがゆくて、くやしくて  
ざんねんでなみだがでてくなんです。  
こどもがまだつちやりときにがつこうの  
しゆくだりしてて、わからへんとこまか  
れても、わたしも字がわかりませんのであり  
えられずこどもには、こんなあかあちや

ぶがわるいなあつて、なんどもさころのなかで  
あやまつてまくたんやもつとはようになん  
きよウしてたゞこどもにもおしゃれ  
たのむかしまつらいこといつぱいあつて  
口ではいいあらわせないくらいやけぐそん  
ななみをくぐりぬけてきをからこそ、いまの  
わたしがあるとあもつてます。そやがうわたらしは  
わたらしじらんのたために、おぼえはわよくて、  
せんせりたちにめいわくかけますけど  
がんばつて、べんきょうします。わたしはいま  
たくさんのことおしえてもらつて、字もよんだり  
かりたりでけるよくなつてきてしあわせや。  
せせり、わたくされからんのしあわせのため、  
べんきょをがんばります。



公立の夜間中学校は、全国に35校あります。兵庫県内には3校あります。

戦争や差別などの理由で小学校や中学校を卒業  
することができなかつた人たちが、子どもの時に  
学べなかつた学習に取り組んでいます。

今まで生徒は、年ぱいの人が多かつたのですが、  
最近は様々な理由で日本に來た若い外国人の人も増  
えてています。



宗景 正 写真集「夜間中学の在日外国人」から